

特別豪雪地帯における自治体の保健活動について

北海道新篠津村役場での聞き取り調査から

Public Health Activities of Municipalities in Special Areas with Heavy Snowfall:

Oral Interviews at Shinshinotsu Village Hall in Hokkaido

公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所

主任研究員 古本 尚樹

〒509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内 1-63

TEL:0572-67-3105 FAX:0572-67-3108

E-Mail: furumoton53@mail.tries.jp

抄録

(和文抄録)

目的：降雪地帯における保健師らによる地域住民の健康対策について把握する。

方法：北海道新篠津村役場で保健師の方への直接聞き取り調査を行った。

結果：看護師のような他業種と連携しないとまらない業務も増えてきた。冬期間の職務では訪問事業で降雪による遅延が発生する場合がある。

結論：降雪量が多い冬期間は自動車での移動などに難がある場合があるが、村内の除雪が比較的整備されていることで影響が少ない。

キーワード：特別豪雪地帯、保健師、高齢化

(英文抄録)

Objective: To better understand health-improvement measures offered by public health nurses to people in areas with heavy snowfall.

Method: Oral interviews were conducted with public health nurses at Shinshinotsu Village hall.

Results: Small-scale municipalities are influenced by economic difficulties, resulting in an increased number of tasks performed by administrative officials. There also has been an increase in tasks that necessitate collaboration with people from another profession, such as nurses. Although the population is decreasing, the amount of work remains the same. There are issues to be managed just as in urban areas. During winter, there are some cases in which on-site visits are delayed due to snowfall.

Conclusion: With a small budget and limited resources, public health nurses of the village are trying to offer various health promotion services for everyone from infants to the elderly. There are some delays in transportation by car in winter due to snowfall, but snow removal operations in the village are relatively well maintained. Thus, the effects are minimal.

KEYWORDS: special areas with heavy snowfall, public health nurse, ageing

1. 緒言

我が国の豪雪・特別豪雪地帯においては降雪により、住民への自治体の保健・医療・福祉サービスへの影響が少なくないと考えられる。同地帯のうち小規模自治体である地域もあり、従来から保健師等の数も限定的な上に、冬期間の気象による影響を抑えながら対応していることが考えられる。そこで気象、今回は降雪による同地帯の保健師の活動の現状と課題について報告する。同地帯の保健師に直接聞き取りを行うことで、実際の「現場の声」を重視して、抽出したいと考えた。

2. 方法

2014 年 3 月 7 日午後 2 時より午後 3 時まで、北海道新篠津村役場にて保健師 1 名に聞き取り調査を行った。主な質問事項は、①通常の住民へのサービス提供にあたり課題と対応について②降雪時期における対応と課題について、である。

尚、新篠津村においては先に、雪氷災害に関連した分野で、防災部局への聞き取りを行っており、その際降雪による自治体の公的サービス提供に関する影響が課題として明らかになったため今回、新篠津村に協力いただいた。新篠津村の保健師が冬期間においても高齢者宅への訪問など雪害の影響を受けやすい状態にあることと、先日の保健・医療・福祉に関連した従事者であることから、新篠津村役場から紹介を頂き、調査当日 1 人の保健師に聞き取りを行った（人的な制限があり、複数への聞き取りは職務への障害となるため 1 名の聞き取りである）。

本調査では、保健師 1 名の聞き取りであり、それが自治体の意見を表すものではない。

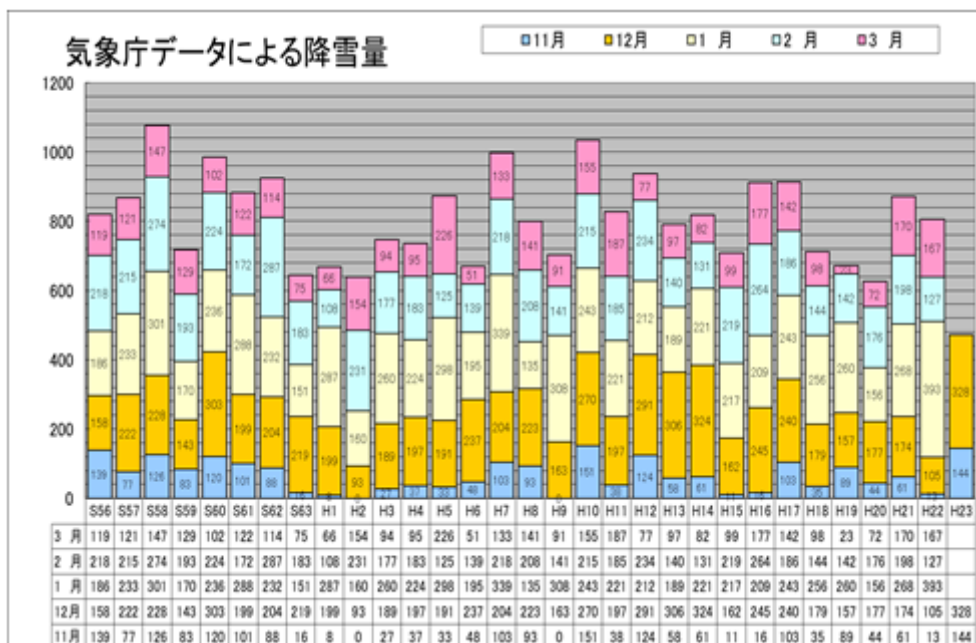
倫理的配慮について

前職 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターにおいて倫理委員会がない代わりに研究部内、研究部上司、また指導者である上級研究員より指導を受け、倫理的に十分配慮を行った。また調査対象自治体また関係者に対しても同様の配慮を行い、問題がないよう連絡をとりながら調査を遂行した。

新篠津村について

2014 年 10 月 31 日現在での人口は、3,345 人である¹⁾。

図 1 新篠津村の降雪量推移 (単位は cm)²⁾



新篠津村の高齢化に関しては、以下の図の通りである。

図2 新篠津村の高齢者世帯数の推移（©新篠津村）

	一般世帯数 合計	65歳未満 親族のみの 一般世帯	65歳以上 親族のいる 一般世帯	単独世帯 (ひとり 暮らし)	夫婦のみ		配偶者以外の 同居者がいる 世帯
					夫婦ともに 65歳以上	いずれかが 65歳以上	
平成 12年度	1,163	652	511	39	82	42	348
	100.0%	56.1%	43.9%	(3.4%)	(7.1%)	(3.6%)	(29.9%)
平成 17年度	1,142	581	561	78	113	40	330
	100.0%	50.9%	49.1%	(6.8%)	(9.9%)	(3.5%)	(28.9%)
平成 22年度	1,073	484	589	101	145	30	313
	100.0%	45.1%	54.9%	(9.4%)	(13.5%)	(2.8%)	(29.2%)

※資料：国勢調査

3. 結果

以下のカテゴリー分けについては、筆者が先述の主な質問事項の内容と合わせて独自に行った。尚、筆者は第三者としての立場である。また、回答は原則、そのまま記載するようにしたため逐語になっている場合が多い。

(以下、調査対象者の意見)

1 職員は足りない。保健関係も事務・地域包括支援センター業務も行っている。

2 介護保険で、予算削減と人的制限のため、特に高齢者へのサービス提供で体制を見直す必要があると思う。

3 保健予防担当の保健師は3人いる。そのうち2人が地域包括の業務を兼務している。嘱託の看護師が地域包括業務を支援している。現在は「先輩」が抜けて、新任が入った関係で、地域包括業務で嘱託看護師に依存する部分が多い。

4 地域包括業務で行いたい業務があっても人的制限のため、対応しきれない。

5 子供を健康に育てるため、保育所、学校へ連携していくことが必要だろう。今はその連携の不十分さがある。発達障害の症状が出る子供もいる。

6 現在は民間クリニックが地元にある。その運営支援に村からも金銭的支援がされている。ワゴン車による村内送迎を行っている。また、試験的に乗り合いタクシーの運行も行っている。

7 村内は自動車がないと不便であり、冬期間は天候によっては、住民の自宅訪問が遅れたりする。検診を行うにしても、なるべく冬の実施は避けている。ただ、村内の除雪が充実している。

8 冬期間に高齢者が屋根の雪下ろしをするのは危険である。ただ、高齢者の意識では、きちんと除雪したいという気持ちがあるだろう。運動になり、おおむね健康に思える。

9 高齢者世帯のほうが「若い人には頼れない」という気持ちが強くなり元気なような気がする。医療機関で治療で、復帰している高齢者もいる。

10 高齢者の自主的な運動グループやボランティアによるサロンが健康づくり関連で動いている。福祉担当職員の働きかけが更に効果を上げるようだ。

11 昔から保健師が密に住民(農家など)と密な付き合いをし、今でも若い保健師が高齢者宅に訪問しても受け入れてくれる。高齢者の検診受診率もかなり高いことに影響している可能性はある。

12 「老人健診」があるが、必要に応じて、送迎もするし、検診時の着替えもゆっくりできるよう対応している。

13 保健師の仕事は昔から「何でも屋」のようである。特定保健指導も始まり、新規の対応が必要だが、本当に何をすべきか、を見極める必要がある。

14 住民への対応で完璧に全てをすること、また順位付けして対応するのも難しい。住民との協働と保健所と連携して体制・対応を見直す必要がある。

15 生活保護対象基準より少ない家計で生活している高齢者が多く、必要なサービスが十分利用されていない。一方で、負担する医療費を軽減するなどは難しいので、例えば、家賃の補助などが良いかもしれない。

4. 考察（以下の文章末尾の括弧内の番号は上記結果内各番号に対応する）

本調査に協力してくれた保健師の意見として、自治体の厳しい財政事情と、村職員の人材不足について指摘があった（1～4）少ない保健師が保健・医療・福祉各分野で関わり、事

務的な業務も行っている (5)。保健師は、村嘱託の看護師と協力しているが、その看護師への負荷を感じている。高齢者へバス送迎がされているという。

冬期間、保健師の活動では、訪問遅延があるという (7)。一方で、検診の実施日を冬期間をなるべく避けるように村役場では対策を立てている。また、除雪が充実していると感じている点について (8)、著者は小規模自治体のメリットとして、対応が細かく、迅速に対応できるのではないかと考える。高齢者が雪降ろしする際は危険を伴うが、健康に寄与している側面もあるとの意見があった。高齢者の自立意識 (9) で、疾病からの回復を目指す動機も高いように著者は思う。元来、保健師と住民相互の信頼関係が形成されているという (11)。高齢者の活動とボランティアとの活動が有効に機能している (10) と保健師は感じている。「検診」では、送迎や、ゆっくり受診できるよう (12)、きめ細かい行政の配慮を保健師は行っているという。これも小規模自治体ならではのメリットではないかと著者は考える。

今後、保健師が多様なニーズに対して、優先順位を付ける必要があるだろう (13) と指摘している。住民協働の健康づくりは重要だろう (14) とも指摘している。

高齢者の家計は厳しい (15) との現状を考慮し、居住空間の質的向上や各種支援実施が検討されている (15) という。

参考文献 3) では、積雪寒冷地特有の健康問題として、高齢者における運動不足は心肺機能、足腰の筋力低下、心の張りなどが大きな障害となっているという。除雪は負担にはなるが、その作業が運動不足の解消につながっていると、調査対象自治体住民の意見があった。また、(地域の) 除雪が十分されていなかったり、寒さのため、デイサービスを利用しなくなってしまったケースも挙げられている。一方で、除雪に関しては身体的、経済的な負担が大きく、問題となっている世帯があることも指摘している。

今回の著者の調査でも参考文献 3) で指摘された内容に関連した意見が、呈された。参考文献 4) では、社会参加や公的など質の高い情報にアクセスできる階層は総じてより健康で、そうではない階層は不健康と呈されていることから、著者は、降雪時期でも除雪を苦にしない階層、あるいは前向きに除雪をして運動に変えようとする階層は、役場の保健師等との関係も円滑と推察する。

5. 結論

今回の聞き取り調査は、保健師 1 人のみが対象なので、職員の意見という制限があるが、特別豪雪地帯として、降雪による障害 (訪問看護等において) が無いよう努力をしていることが呈された。各世帯の除雪を住民自ら行うことにより、適度な運動・健康への効果を期待して積極的に行おうとする階層と、逆に除雪が身体的にも経済的にも負担となっている階層がいることがうかがえた。今後も高齢化が進む中で、行政、とりわけ高齢者と直に接する機会の多い、保健師が冬期間高齢者の抱える課題に対応していくか、継続して調査を行いたい。

謝辞

新篠津村役場の保健師様、同村役場の皆様には、お忙しい中、ご協力いただきました。ここに深謝申し上げます。

参考文献

1) 新篠津村.新篠津村の人口と世帯数

<http://www.vill.shinshinotsu.hokkaido.jp/>

(2014-12-19)

2) 気象庁.過去の気象データ検索

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=14&block_no=0030&

(2014-12-19)

3) 北村久美子：【寒圏医学・寒圏看護学の現状と課題】積雪寒冷地における看護の課題と保健婦活動 道東・道北圏域を中心に.旭川医科大学研究フォーラム。2001；2巻2号：34-42

4) 近藤克則：健康格差社会,医学書院,135 - 146,2005